

公益社団法人化学工学会
粒子・流体プロセス部会 2024年度第2回定例幹事会 議事録(案)

日時：令和7（2025）年3月12日（水）12:00～13:00

場所：化学工学会第90年会G会場（講義棟3F304）

参加者：仁志（議長）、太田、加納、岩崎、押谷、菰田、島田、春藤、中田、長津、日出間、
増田、水田、吉田、寺坂（監事）、竹中（監事）、小林（事務局）、佐武（事務局）（敬称略）

委任：伊奈、金井、立元、古川（事務局）（敬称略）

議事：

1. 前回幹事会議事録の確認（資料1）

前回幹事会の議事録内容を確認し、了承された。

2. 本部理事会承認事項および部会長会議の報告（資料2）

本部理事会での承認事項ならびに部会CT・部会長合同会議の議事録が紹介された。仁志部会長より、本部の財務状況及び当部会としての方針について補足説明がなされた。また、年会の学生賞、ポスターセッションの見直し案について説明がなされた。

3. 2024年度部会・分科会活動報告（資料3）

2024年度の部会・分科会の活動について報告がなされた。活動報告書については3月中旬に本部へ提出予定である。

4. 2025年度事業計画（資料4）

2025年度の事業計画について報告があった。事業計画書は2025年1月20日に本部へ提出済み。

5. 2024年度分科会配分（資料5）

2024年度についてはシーリング制度に該当しなかった。昨年度7月に合計48万円1円で各分科会へ分配を行なった。小林先生より、2025年度もおそらくシーリングにかかる予算の見通しであることについて説明がなされた。本部から部会への交付金の金額によるが、諸物価高騰や事業の対面化に伴う部会本部経費の増加により、昨年度より分科会への分配金が大きく減る見通しであることも補足された。

6. 2024年度決算（資料6）

2024年度の決算報告がなされた。決算書類は3月10日までに事務局及び分科会より本部へ提出済みである。寺坂監事と竹中監事の監査において何点かの疑点が指摘され、修正と説明を行った。その結果、両監事より2024年度決算に問題なしとの監査結果が報告された。

7. 2025年度予算（資料7）

2025年度の予算について報告があった。予算申請書は11月8日までに事務局および各分科会より本部へ提出済み。

8. 2024-2025年度部会長および副部会長について（資料8）

2025年度の部会長および副部会長、部会役員・幹事体制が確認された。2024年度と変更なく、継続することとなった。

9. 若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会（資料9）

中田担当幹事より12月6日に5年ぶりとなるオンラインサイト開催された「若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会」の実施状況、決算、アンケート結果について報告された。アンケートより概ね好評であったこと、企業の若手が交流する場としても重要であることが報告され、2025年度もオンラインサイト開催で検討することが承認された。

10. 部会賞について（資料10）

加納担当副部会長及びご担当の先生方から受賞者について紹介された。シンポジウム賞・奨励賞の研究発表が初日、3日目の異なるセッションで行われ、同じ審査員が両方の発表を聞き、審査したが審査員の調整が難しかったことが報告された。

奨励賞および技術賞の受賞者は、それぞれ化学工学会の研究奨励賞、技術賞に推薦することが確認された。

11. 2024年度部会セミナーについて

島田担当幹事より、2024年度部会セミナーについて報告がなされた。

① 受賞者の年会参加費（特に学生の受賞者）を補助することが提案され、招待講演としての取り扱うこと含め、今後検討することとなった。

② 次年度からの運営について、問い合わせ窓口を担当幹事か事務局側に一本化した方がよいとの提案があり、今後検討することとなった。

12. ニュースレターについて

日出間先生より、2024年度は部会ニュースレターを8月と2月に発行したと報告があった。2025年度の発行時期について提案があり、今年度と同じ8月と2月に発行を目指すことが承認された。

13. 承認・報告事項

・ MMPE2025（資料11）

寺坂先生よりMMPE2025の準備状況について報告がなされた。

4月から申し込みが始まるごとに、若手優先で口頭発表を組むこと等、今回の運営の特徴についての説明がなされた。

14. 審議事項（資料12）

加納先生より、前幹事会で意見聴取を行ったシンポジウム賞規定の改定の提案がなされた。改定内容は、現在、プレゼンテーション賞において学生会員の発表を全て審査対象としている（辞退可）ものをエントリー制に変更するもの。エントリーの方法、誰がエントリーするのか、指導教員の確認の方法などについて議論がなされた。規程改正案の文面は問題ないものの、エントリー制の運用方法についてさらに検討し、メール審議することとなった。

15. 各分科会報告

特になし。

16. その他

仁志部会長より、化学工学会本部の財務改善方針に伴う部会分配金の減額や事業収益化要請に伴うシーリングの実施が想定され、今後の部会本部（事務局）予算確保がさらに厳しくなるとの懸念の説明がなされた。

以上